

令和6年度第1回鎌倉市障害者差別解消支援地域協議会 会議結果概要

開催日時	令和6年(2024年)10月30日(水)14時30分から16時00分
開催場所	本庁舎2階 全員協議会室
出席者	〔委員〕 ○8名出席(欠席者2名) 〔事務局〕 ○4名出席(欠席者1名) 以上12名出席 「鎌倉市障害者差別解消支援地域協議会 委員名簿」を参照 〔傍聴者〕 なし
配布資料	【配付資料】 ・資料1 鎌倉市障害者差別解消支援地域協議会委員名簿 ・資料2 令和5年度第2回鎌倉市障害者差別解消支援地域協議会会議結果概要(案) ・資料3-1 障害者差別解消法の周知啓発に向けた取組まとめ ・資料3-2 障害者差別解消法の周知啓発に向けた取組に係る資料(5種類) ・資料4-1 平成30年作成リーフレット「みんなで知ろう 障害者差別解消法」(令和6年4月施行法改正対応版) ・資料4-2 新規作成するリーフレットの内容及び活用方法(案) ・資料4-3 (参考) 出版社や他自治体等のリーフレット(5種類)
会議概要	1 開会 (1) 所属機関内の異動に伴う委員の交代について説明。 (2) 協議会の趣旨及び運営について次のとおり説明。 差別を解消するための取組を効果的かつ円滑に行うために、本協議会を開催する。 「鎌倉市審議会等に関する指針」に基づき、会議は原則公開となるが、個人情報を含む審議、意見交換、懇談等を行うときは、非公開とする。今回の協議会で扱う内容については、個人情報を含む内容がないため、公開とする。 令和5年度第2回鎌倉市障害者差別解消支援地域協議会会議結果概要について、この場で内容の確認をし、後日市HPでの公開を予定している。 2 議題 (1) 鎌倉市の取組について(報告) 資料3-1に基づいて次のとおり報告。 ア 広報かまくら9月号に障害者雇用に関する記事を掲載。 イ 6月の観光協会総会で、障害者差別解消法に関するリーフレットを配付。

会議概要 (続き)	ウ 神奈川県から共有を受けた障害者差別解消法のチラシを本庁舎内に配架。 エ 新採用職員向けに、聴覚障害や障害福祉全般に関する研修を実施。 オ 12月号の衛生時報に精神障害に関する記事を掲載予定。 カ 新たに障害者差別解消啓発リーフレットを作成予定。後ほど協議したい。 キ 現行のリーフレットについて引き続き配布予定。 ク 11月に係長級職員向けに障害者差別解消法に関する研修を実施予定。 ケ 11月に精神保健福祉講演会を実施予定。既に定員に達している。 【委員からの主な意見、質問等】 (委員) 広報かまぐらの記事について、写真も多く入っていて生き生きと働いている姿を市民に見てもらえたと思う。 (委員) 新採用職員向けの研修は何名受講したのか。 (事務局) おおよそ30名から40名程が受講した。具体的な人数は後ほど回答したい。 (3) 障害者差別解消啓発リーフレットについて(協議) 資料4-2に基づいて次のとおり説明。 昨年度開催した本協議会のなかで、小・中学校の子ども向けに障害者差別解消に関する周知啓発を行うことで、その子ども達が成長する頃には障害者差別がないことが常識になるという意見があったことや、事業者向けのリーフレットは既に複数作成されていることを受け、子ども向けのリーフレットを新たに作成してはどうか。 しかしながら事業者への周知もまだまだ必要であるため、子ども向けと事業者向けとそれぞれリーフレットのイメージ案やサンプルをご覧いただき、どちらを作成したら良いかご意見を頂戴したい。 活用方法としては、子ども向けのものであれば市内小中学校や保育園での掲示や生徒等への配布、事業者向けのものであれば観光協会等を通じた事業者への配布を考えている。 【委員からの主な意見、質問等】 (委員) 点字版や音声版も作成できると良い。 (委員) 視覚・聴覚障害のある方への合理的配慮として、点字版等は他のリーフレット等でも予算があれば作成できると良い。 (委員) 子ども向けの方を作成したい。また、鎌倉市子ども・子育て会議に出席した際、「障害」と「害」を漢字で書かれると自分の子どもは「害」なんだ、変なんだと思うってしまうという意見があった。調べたところ、大分県はすべてひらがなになっている。神奈川県は考えた
----------------------	---

会議概要 (続き)	末に漢字で統一しているようだが、鎌倉市ではせっかく新しく作成するのでひらがなに してもらいたい。 (事務局) 世のなかの動きとしてまだまだ障害理解がされていない状況で、漢字のままにする という流れがあり、鎌倉市も障害に関する計画を策定する委員会でもひらがなか漢字か という議論が出ていない。条例や規則、課名等について鎌倉市では漢字を使用している。 今後検討を進めていく必要があると思うが、当面は漢字を使用することにご理解いた だきたい。 (委員) 統一するとか国が漢字だから漢字にするとかではなく、せっかく差別解消の協議会な のだから、ここから変えてみたらどうかと思う。 (委員) 今の事務局の話は、神奈川県のアラビヤに書いてあることそのもので、前例がない、特 別扱いはできない、何かあったら危ない、既存のルールを守るとのことだと思ふ。 (事務局) 今のところの国の方向性として、条例や規則といったものについては漢字のままとい うことになっているので、こういう場で議論していきたい。 (委員) 大分県はひらがなにしている。神奈川県内の市町村でも課名をひらがなにしていると ころもあり、それは法律とか条例ではない。この場で協議しているのに変えられないとい うのであれば、この会議の意味があるのか。 (事務局) まだひらがなか漢字かという議論があがっていなかったもので、今後というお話をさせ ていただいた。色々変えていくとなると法制や計画の部署との協議も必要になってく るので、皆様のご意見を基に調整したい。 (委員) ちなみに、マスコミは記事なんかを書くときには記者に任されているそう。 (委員) リーフレットは出来合いのものを購入するのではなくて一から作り上げていくとい うことで良いか。 (事務局) 購入することも考えていたが、子ども向けで購入できるものが無かったため、初めか ら作成したほうがより効果的なものができるかと考えている。資料４－２の裏面に、本 当に簡単ではあるがイメージ案があるのでこちらもご覧いただきたい。ここで皆様から ご意見をいただければ、もっとしっかりした案を作成し、次回の協議会またはメール等 またご意見を伺いたい。 (委員) 子ども向けのものを作るか事業者向けのものを作るかという点の確認がまだかと思 うが、子ども向けのリーフレットを作成するというで良いか。 (委員)
----------------------	--

会議概要 (続き)	了承。 (委員) 子ども向けというが、小中学校と保育園を一括りにするのはどうかと思う。小学校1年生と中学校3年生では全然別物と考えられるし、発達段階によって障害というものに対する認識もかなり違う。何を伝えるのかということがとても大事である。 これからの違う時代を生きる子どもたちのためにと考えるのであれば、固定観念や思い込みをとっばらって、どうしたら本当にみんなが助け合える世の中になるのかを考える必要がある。大きな使命だと思う。 障害のある人には優しくしましょうというのが上から目線で嫌だと思っている。お互い様だということを子どもたちに伝えていかなければならない。足が不自由でかわいそうとお母さんがお子さんに言うとか、そういうところから変えていきたい。 (委員) 地域共生社会という視点で考えるべきだが、障害者差別解消というテーマから入ると難しいと感じる。 (委員) 中学生は客観的に考えたり、自分で調べたり取材したりしながら議論ができる段階だと思う。 (委員) どのあたりにターゲットをあてると効果的か。 (委員) 自分は保育園のことがわからないが、小学校の高学年か中学生くらいか。1つ作って終わりでもないので、段階的に作っていくものかと思う。教育現場でも、まず小学校バージョンを作り、それを中学校バージョンにするというふうに段階的に取り組むこともある。 (委員) 保育園に配るとなると、4コマ漫画は難しいかもしれない。困っている場面と助け合っている場面の2コマ漫画で、字がわからなくても絵を見てわかるようなものが良いのではないか。また、こんな場合はどうしようといった言葉を入れておくと、議論はできなくてもちょっと考えることもできるかもしれないし、中学生くらいの子どもであれば深く踏み込んで考えられるかと思う。 (委員) 目で見てパッとわかるというのは全年齢共通かと思う。 (委員) 子どもにわかりやすいものだったら全世代にも伝わる。 (委員) 例えば、ヘルプマークをつけた人が1コマ目にいて、2コマ目で席を譲っているシーンというような、わかりやすいビフォーアフターができると良い。困っている人にどう声をかけたら良いのか、いいセリフがあれば広めていきたい。 (委員) どのくらいの年齢の方に向けて作るかはすごく難しいと思う。「助ける」「平等」「支えあ
----------------------	---

う」「共に生きる」など色々な言葉があるが、タイトルやコンセプトが重要。

(委員)

「害」について調べてみたが、歴史的にみると、昔は違う漢字の「がい」を使っていたがそれが「害」になってそのままになっているようで、当て字と言えるので、漢字にあまり意味はないだろう。

(委員)

もし漫画にするなら、鎌倉には有名な漫画家が何名かいらっしゃるので、社会貢献ということでご協力いただけると、面白くわかりやすいタッチで描いていただけるかもしれないし、注目を浴びると思う。

(委員)

中学生であれば、事業者向けリーフレットのサンプルである資料4-3①は理解できると思う。そのため、もっと小さい子向けのものを作成すれば良いかと感じる。

(委員)

1から考えるのは非常に難しいかなと感じるので、資料4-3①をベースにして、より中学生向けにしたものを作成するのはどうか。

(委員)

中学生は資料4-3①がわかるから、もっと小さい子向けのものを作成しようということではないか。日常生活で事例が多い場面は公共交通機関か。

(委員)

ちょっとしたお手伝いが必要だというようなことはあるので、公共交通機関での合理的配慮はとても必要だと思う。

(委員)

小さい子どもが公共交通機関に行くことは頻繁ではないかもしれないので、信号待ちや荷物をたくさん持っているような場面が現実的か。

(事務局)

小学校教員の経験があるが、小学校の中でも学年によってかなり差がある。小学校は中学校と違い、全校に支援級が配置されており、まず1年生の時に支援級のあり方を話すが、道徳で少しずつ教えていくようにしていて、一気に「平等」とはこういうものという教え方はしていない。

また、いろんなリーフレットがあるがその扱い方が教員によって異なる。配って終了ということもある。そのため、どういう使い方をするか、何を目的とするかはよく検討しないといけない。

支援級に対しての保護者の理解が進んでいないところもある。見つめ直すためには資料4-3①を中学生向けにしていくのが良いかと思う。

(委員)

資料4-3①をメインにしつつ、小学校低学年でも興味を持てるようなマークの説明をつけるようにするのはどうか。1から絵を描くのは難しい。

(委員)

小学校低学年や幼稚園の子どもたちは障害のある方と触れ合う機会が少ないと思う。先ほど話が合ったように公共交通機関等での場面が多いのであれば、資料4-3①を

	中学生向けバージョンにすれば良く、新たにリーフレットを作成しなくて良いと思う。福祉や防災のリーフレットがたくさんあって、誰がどうやって何を見てどう考えるかわからないところも多いが、資料４－３①を広げていくのが一番かと思う。 (委員) 先ほど小さい子向けのものの話をした。ゆくゆくはそういうものができると良いと思うが、急にそれを作るよりも、皆様が言われるように今あるものを変えていく方が作りやすく浸透していきやすいと思う。全部を盛り込むことは難しい。 また、既存のリーフレットを見ると身体障害のことが多く、ハードルが高いから知的障害のことが少ないと思う。 (委員) 電車の中で、独り言を言っている人を温かく見守っているような雰囲気をつかむと、共生社会が進んでいると思うが、これを絵で表すのは難しい。聴覚過敏のためヘッドフォンをする方がいるが、最近は音楽を聴くためにヘッドフォンをしている人が増えていて、違和感が無くなって救われると思う。 横浜市では、ヘルプカードを色分けして「声をかけないでください」等複数のメッセージを伝えられるようにしている。 (委員) 意見を聞いていて、地域共生社会を作っていこうという方向と、日常の場面で私たちができることが何かという２つの要素があったと思う。ゆくゆくは地域共生社会という方向にとも思うが、まずは日常の場面の話からスタートしてはどうか。 (委員) 了承。 (委員) 活用方法はどうか。 (委員) 学校に掲示するだけでは効果的ではなく、配っても配布物が多いのでそれもあまり効果的ではない。教育現場で教材として積極的に扱うようにしなければ意味が無いと思うが、ここで扱ってくださいと言われると苦しいところもあるかもしれないので、そこは教育現場に任せてもらいたい。 (委員) 生徒数分作成するとなると予算は足りるか。 (事務局) 資料４－３①を購入すると予算が不足するが、作成する分には足りる。 (事務局) 購入する場合は著作権があるので、作成する場合に限る方法だが、公立の小中学校は１人１台端末が配布されているので、端末上のアプリにアップロードすれば、印刷費用が削減できる上、改正するたびに更新が容易であるメリットがある。 (委員) 紙媒体のリーフレットは溢れているので、電子媒体も視野に入れて検討できると良い。 (委員)
--	---

	資料４－１の過去に作成したリーフレットの活用方法としては何かあるか。 (委員) 来年の２月の会員の集いで 200 部程配布可能。 ３ その他 (１) つい先日報告があったばかりの、障害者差別に関する事例の共有。 (２) 議題１の報告事項内であった質問への回答。新採用職員向け研修は 40 名を対象に実施した。 (３) 次回日程については、令和７年３月頃を予定。 (会長) 令和６年度第１回鎌倉市障害者差別解消支援地域協議会を終了する。 以上
--	---